

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	PLoS ONE 2006; 1: e71	プリオン蛋白に高親和的、特異的に結合する吸着基質 Alicon Prio Trapを開発し、ヒト、ウシ、ヒツジ、ヤギの乳汁 中にPrPScの前駆体であるPrP ^C を同定することができ た。PrP ^C の絶対量には種差があり、ヒツジの乳汁中でμ g/ルンジ、ヒト乳汁中ではng/ルンジであった。PrP ^C は、 均質化し低温殺菌した市販ミルク中にも認められ、超高温 処理を施しても肉因性PrP ^C 濃度はわずかに減少した だけであった。TSEに感染した動物の乳汁がPrPScの感 染源となる可能性を示唆する。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	ProMED- mail20070108.0081	英国保健省は2007年1月8日、CJD患者数に関する最新 情報を公表した。vCJD確定例における死亡患者112名、 vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確 定)48名で、死亡患者総数は158名である。生存中の vCJD可能性患者は7名で、vCJD確定例または可能性例 総数は165名である。2006年12月4日の月例統計以来、死 亡患者総数には変化なく、確定例または可能性例総数は 1名増加した。このデータは英国におけるvCJD流行は減 少しつつあるとずる見解に一致する。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	ABC Newsletter 2006年12月15日 5- 6ページ	米国で製造された血漿由来の第Ⅷ因子製剤による患者 へのvCJD病原体伝播のリスクは、極めて低いと見られ る。生物製剤評価調査センター(CBER)のSteven Anderson博士は、しかし、リスクはゼロではない」と伝達 性海綿状脳症(TSE)諮問委員会の本日の会合で話した。 CBERは、2005年10月31日の委員会提示されたコン ピュータモデルと仮説に基づいたリスク分析案の概要を 示した。重要度解析では、リスクを決定する主要な要素 は、製造工程におけるvCJD感染因子の低減である。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年 1月19日	英国で4例目の輸血関連vCJD可能性例が診断された。こ の症例は供血後約17ヶ月でvCJDを発症したドナーからの 赤血球輸血を受け、8年半後にvCJDを呈した。このドナ ーは3例目の輸血関連vCJD症例へのドナーでもある。4例 目の症例はプリオン蛋白遺伝子のコドン129がメチオニン ホモ体であった。まだ生存中である。